

3. 福岡市水道施設耐震化計画

3-1 想定地震

福岡市域に最も被害をもたらす警固断層帯南東部を震源とするマグニチュード 7.2 の地震を想定し、断層の特性を踏まえた水道施設の耐震化を計画します。

断層の位置や地震規模などの特性については、文部科学省地震調査研究推進本部による「警固断層帯の評価」（平成 19 年 3 月公表）を参考にしています。なお、国などにおいて「警固断層帯の評価」が改めて示された場合は検証を行うこととします。

警固断層帯（南東部）の特性

- ア. 断層帯の位置 : 北緯 33° 39′ 東経 130° 19′ ~ 北緯 33° 28′ 東経 130° 32′
(志賀島南方沖の博多湾 ~ 筑紫野市)
- イ. 断層の長さ : 約 27 km
- ウ. 断層の種類 : 左横ずれ断層
- エ. 過去の活動時期 : 最新の活動時期 約 4,300 年前以後、約 3,400 年前以前
- オ. 平均活動間隔 : 約 3,100 ~ 5,500 年
- カ. 活動時の地震の規模 : マグニチュード 7.2 程度 (左横ずれ 2 m 程度)

【参考】福岡県西方沖地震（平成 17 年 3 月 20 日 10 時 53 分）の概要

- ア. 震源地 : 福岡県西方沖 (北緯 33° 44.3′ 東経 130° 10.5′)
- イ. 震源の深さ : 9 km
- ウ. 規模 : マグニチュード 7.0
- エ. 震度 : 震度 6 弱 (福岡市中央区、東区)

3-2 施設整備（耐震化）にあたっての基本的な考え

- ① 「水道施設の技術的基準を定める省令」や「水道施設耐震工法指針・解説」などを踏まえ、重要度や緊急度の高いものから計画的に実施する。
- ② 水源・浄水場整備事業、配水管整備事業など既存事業の整備計画を踏まえた効率的かつ効果的な整備とする。
- ③ 災害時の市民生活への影響を最小とするため、震災後の運搬給水や迅速な復旧を考慮した整備とする。

3-3 福岡市水道施設耐震化計画における施策

施策体系図

